

平成 28 年度 全国学力・学習状況調査結果について

— 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 —

○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査の実施状況

小学校 113 校 中学校 52 校 特別支援学校 1 校

小学校 第 6 学年 約 11,350 名

中学校・特別支援学校 第 3 学年 約 9,150 名

○児童生徒に対する調査

〈教科に関する調査〉

小学校調査 - 国語・算数 中学校調査 - 国語・数学

主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

〈質問紙調査〉

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

○学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

○調査実施日 平成 28 年 4 月 19 日 (火)

教科に関する調査結果の概要

1 教科に関する調査の平均正答数(問)と平均正答率(%)

平成 28年度 (公立)	小学校調査								中学校調査							
	国語				算数				国語				数学			
	A(15問)		B(10問)		A(16問)		B(13問)		A(33問)		B(9問)		A(36問)		B(15問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
川崎市	10.7	72	6.1	61	12.4	78	6.4	50	25.1	76	6.1	68	22.4	62	6.9	46
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44
差	-0.2	-1	0.3	3	0	0	0.3	3	0.1	0	0.1	1	0	0	0.3	2

* A：主として「知識」に関する問題

B：主として「活用」に関する問題

2 全体の傾向

本市においては、「上記 1」の 8 項目のいずれの平均正答率も全国に対して ±5 ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差の認められないとする範囲内であるので、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

① 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示すとおりである。
全体の傾向については、領域等ごと、設問ごとに示し、全国との差が5ポイント以上である設問には「△」「▼」印を付けている。

△：上回った設問 ▼：下回った設問

結果の概要については、領域ごとに個々の設問について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。

◇：よい状況と考えられる問題 ◆：課題があると考えられる問題

小学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う。
■ 書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する。
■ 目的に応じて、図と表と関係付けて読む。
■ 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える。
■ 毛筆の字と用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める。

国語B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ インタビューメモを基に、話し手の意図を捉えながら聞いたり、話の展開に沿って質問したりする。
■ 目的や意図に応じ、グラフや表を用いて、自分の考えが伝わるように工夫して活動を報告する文章を書く。
■ 目的に応じて、複数の本や文章を比べ、自分の考えを明確にしながらかく。

○全体の傾向

・領域等ごとの傾向

領域等ごとの平均正答率は、話すこと・聞くことではA81%、B56%、書くことではA77%、B56%、読むことではA80%、B72%、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ではA68%、である。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項のAにおいて全国を下回り、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全15問中7問で全国を上回り、Bでは全10問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

△A3 「じゃんけん列車ゲームのルール説明」を書き直すときに適切な助言をしたものを選択する(74%、+7)

△B1－ インタビューメモ作成の工夫に当てはまらないものを選択する(59%、+7)

△B2三 活動報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する(64%、+5)

▼A1－3 漢字を読む むだを省く (75%、-6)

▼A8 ローマ字を書く、読む 2 あさって(34%、-8) 3 hyaku(45%、-6)

○領域等ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◇A2 全校集会における歌を決めるためにどのように話し合いをしているのか、その説明として適切なものを選ぶ設問において、目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うことについては、相当数の児童ができています。(81%)

- ◆B 1 三 店長へのインタビューをする際に、用意したメモを基にインタビューし、話の方向性に沿った質問を書く設問において、話し手の意図を捉えながら主体的に聞き、話の流れに沿って質問を考えることについては、課題がある。(59%)

書くこと

- ◇A 4 パンフレット作成のために、追加の取材をした理由を選ぶ設問において、目的や意図に応じて書く事柄を整理することについては、相当数の児童ができています。(80%)
- ◆B 2 一 グラフを基に「早ね早起き」活動の成果を適切に書いたものを選ぶ設問において、グラフから読み取った情報を書くことについては、課題がある。(46%)

読むこと

- ◇A 5 案内図と表を関係付けて読み、希望に合うものを選択する設問において、目的に応じて必要な情報を取り出すことについては、相当数の児童ができています。(94%)
- ◆A 6 「おばさんの飛行機」を読んで、登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択する設問において、登場人物の人物像について複数の叙述を基にして捉えることについては、課題があると捉えている。(67%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇A 1 一 漢字を読む設問において、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことについては、相当数の児童ができています。 1 快晴(80%) 2 貯金(98%)
- ◆A 8 ローマ字の設問において、平仮名をローマ字で書くことについては、課題がある。
1 りんご(51%) 2 あさって(34%)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと ○目的意識をもって、主体的に聞く指導の工夫

聞くことの指導は、自ら学び、課題を解決するための主体的な行為として捉えさせることが重要である。具体的には、説明や報告、紹介や推薦することを通して話を聞き、感想や意見を述べる活動を年間指導計画に位置付け確実にやっていく必要がある。さらに、各教科や総合的な学習の時間、特別活動などと関連を図っていくことが大切である。

書くこと ○図表やグラフを基に、分かったことを的確に書く指導の工夫

図表やグラフなどを読み、分かったことを的確に書くには、情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて記述することが重要である。そのためには、社会科や算数科などで学習した図表やグラフの読み方を生かし、読み取ったことを的確に表現することができるように指導していくことが大切である。

読むこと ○登場人物の人物像を捉える指導の工夫

登場人物の人物像を捉えるためには、各場面に描かれた行動や会話などに即しながらそれぞれの特徴や性格を押さえて読むことが重要である。登場人物の性格は、文中に複数にわたって行動や会話として描かれているため、それらを関係付けながら読むことが必要である。そして、場面の移り変わりに注意しながら読むことによって、登場人物の性格をより明確に把握することができるように指導していくことが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○ローマ字を生活の中で、進んで読んだり書いたりする指導の工夫

ローマ字については、繰り返し読んだり書いたりすることが必要であり、児童が必要を感じるように、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットなど、日常の場面と結び付けながら指導することが大切である。また、コンピュータのキーボード入力もローマ字を意識して使うように指導していくことが大切である。

小学校 算数

○調査問題の趣旨・内容

算数A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■ 除法の性質に基づいて、小数の計算を整数の計算に置き換える。

■ 単位量あたりの大きさを求める式を書く。

■ 直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ。

■ 全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合が、一番大きいものを選ぶ。

算数B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■ 示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する。

■ 示された式の中の数値の意味を、ほかの数値や演算と関連付けて解釈し、それを記述する。

■ グラフから読み取れる情報を根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述する

■ 除法の式を形と関連付け、角の大きさを基に、その式の意味を記述する。

○全体の傾向

・領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、数と計算ではA80%、B48%、量と測定ではA77%、B45%、図形ではA76%、B38%、数量関係ではA72%、B45%である。数と計算のA、図形のAにおいて全国を下回り、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全16問中9問で全国を上回り、Bでは全13問中11問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

△A9(2) 割合の関係を図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く(58%、+7)

△B2(2) 目標タイムを求める式と答えを書く(56%、+6)

△B3(2) 正方形を24個切り取ることができる理由を記述する(44%、+5)

▼A7 直方体において示された面に垂直な面を選ぶ(72%、-6)

○領域ごとの結果の概要

数と計算

◇A1(3) 小数の除法の結果を、乗法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く設問において、除法における計算の確かめの方法を理解することは、相当数の児童ができています。(88%)

◆B2(3) 目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く設問において、示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述することについては、課題がある。(19%)

量と測定

◇A5 三角形の面積を求めるときに、底辺に対する高さを選ぶ設問において、三角形の底辺と高さの関係を理解することについては、相当数の児童ができています。(82%)

◆B1(2) 正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が4cm²小さくなることの説明を書く設問において、示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を言葉と式を使って書くことについては、課題がある。(47%)

図形

◇A6 4枚の三角定規でつくることのできる形を選ぶ設問において、角の大きさや辺の長さなどに着目して、図形を構成することについては、相当数の児童ができています。(80%)

- ◆ B 5 (2) 示された四角形を並べてできる図形を選ぶ設問において、図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することについては、課題がある。(25%)

数量関係

- ◇ A 9 (1) 前に 10 人、後ろに 19 人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を求める式と答えを書く設問において、示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことは、相当数の児童ができています。(80%)
- ◆ B 4 (3) A 小学校と B 小学校の貸出冊数の変化の様子を表したグラフから、読み取った事柄が正しくない理由を書く設問において、グラフから貸出冊数を読み取ったことを根拠に、その理由を言葉や式を使って書くことについては、課題がある。(27%)

○授業改善に向けて

数と計算

○日常生活の事象と式を関連付け、式の意味や数値の意味を解釈し、説明する指導の工夫

日常生活に用いられている様々な式について、日常生活の事象と関連付けて式の意味や数値の意味を解釈することが大切である。そのためには、言葉の式を提示し、事象と式を関連付けながら、式や数値の意味を解釈する場を設定することが考えられる。その際、解釈が不十分な表現を取り上げ、式や数値に注目させ、式や数値の意味に気付くことができるようにする。

量と測定

○条件を変更して発展的に考察できるようにする指導の工夫

算数の学習では、見付けたきまりを基に、条件を変更して発展的に考察することが大切である。発展的に考察する場面では、他の正方形について検討したり、同じ正方形で増減する数値を変えたり、もとの正方形を長方形に変えたりするなど、数値や形を変えることが考えられる。発展させた問題に対して、児童自らが新たな問いをもてるように学習展開を工夫する必要がある。

図形

○辺の長さや角の大きさなどに着目して見通しをもって図形を構成したり、構成できた根拠を説明したりする指導の工夫

図形を構成する際には、辺の長さや角の大きさなどに着目して見通しをもって図形を構成すること、構成した図形について、構成できた根拠を考え、説明できるようにすることが大切である。指導に当たっては、どのような形ができるかを予想し、実際に作って確かめ、実際にできた図形と比較しながら、構成要素に着目するように問い返し、直角が 2 つ並ぶから 180° になり直線ができるなどの根拠を明らかにすることが大切である。

数量関係

○判断したことを明らかにした上で、説明する指導の工夫

事象に対して判断したことを説明する際には、判断した根拠を明らかにし、相手を意識して説明することが大切である。その際、根拠となる事柄が不足している説明を取り上げ、説明として何が不足しているのかについて話し合う活動を取り入れ、話し合ったことを児童一人一人が振り返って確認できるようにすることが大切である。

○調査問題の趣旨・内容

国語Aー 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 絵本のページを提示した意図として適切なものを選択する。
 ■ パンフレットの見出しを他の見出しの書き方を参考にして書く。
 ■ 奥付の特徴を説明したものとして適切なものを選択する。
 ■ 歌詞に出てくる言葉の「忘れがたき」の意味として適切なものを選択する。

国語Bー 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く。
 ■ 宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く。
 ■ 物語をより深く読むために図鑑を調べ、その説明を読むことで、よく分かるようになった部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く。

○全体の傾向

・領域等ごとの傾向

領域等ごとの平均正答率は、話すこと・聞くことではA80%、書くことではA74%、B60%、読むことではA80%、B68%、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項A74%である。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項のAにおいて全国を下回り、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全33問中23問で全国を上回り、Bでは全9問中8問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上あった設問は以下のとおりである。

- △A9六 題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する(44%、+8)
 ▼A9二3 漢字を読む 目上の人を敬う(77%、-6)

○領域等ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◇A5一 電話を受けた相手の立場や状況を考えて話す設問において、相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すことについては、相当数の生徒ができています。(93%)
 ◆A7二 外国の中学生との交流会の内容について話し合ったことを踏まえた発言として適切なものを選択する設問において、話し合いを想定し、互いの発言を検討して自分の考えを広げることについては、課題があると捉えている。(66%)

書くこと

- ◇A4二 北極と南極について調べ、その中の「どちらの平均気温が低いか」という質問に対する答えが明確になるように書く設問において、読み手に対してどの部分が根拠か分かるように書くことについては、相当数の生徒ができています。(79%)
 ◆B3三 物語文を読んで意味の分からない言葉を図鑑で調べ、物語がよく分かるようになった部分と、その部分からどのようなことが分かったかを書く設問において、図鑑の内容を適切に取り上げ、根拠を明確にして自分の考えを書くことについては、課題がある。(60%)

読むこと

- ◇A3二 「私」にとってのライスカレーについて、適切に説明したものを選ぶ問題において、

登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することについては、相当数の生徒ができています。(91%)

- ◆B 2 三 宇宙エレベーターについて疑問に思ったことを調べるために、学校図書館を活用して必要な本の探し方を考える設問において、課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることについては、課題がある。(50%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇A 9 三 適切な語句を選択する設問において、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことについては、相当数の生徒ができています。(93%) ア 合間を～縫って
- ◆A 9 一 漢字を書く設問において、文脈に即して漢字を正しく書くことについては、課題がある。(28%) 2 今までにないドクソウ的な考えだ
- ◆A 9 五 文章を書き直した適切な意図を選択する設問において、文の成分の照応について理解することについては、課題がある。(52%)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○話し合いの流れを確認しながら互いの発言を検討し、自分の考えを広げる指導の工夫

話し合いを行う際には、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げることが重要である。その際、相手の意見を聞き、自分の意見との共通点や相違点を整理したり、賛成や反対などの判断をしたり、異なるものの見方や不足していた視点などに気付くように指導することが大切である。

書くこと

○根拠を明確にして自分の考えを書く指導の工夫

文章の中の自分の考えについて根拠を明確にして書く力を身に付けるために、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、複数の事例や専門的な立場からの意見などを示すように指導する必要がある。そのためには、百科辞典や図鑑などの資料から得た情報を踏まえ、根拠として示した内容が自分の考えや気持ちを支えるものになっているかどうかについて吟味するように指導することが大切である。

読むこと

○課題の解決に向け、見通しをもって読む情報を収集する指導の工夫

自ら情報を収集しながら課題の解決を図る学習の際には、新聞や雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段、学校図書館などを活用する必要がある。その際には、課題の解決までの見通しをもち、状況に応じて適切な情報収集の方法を選択するように指導することが大切である。なお、学校図書館の利用に当たっては、小学校での学習内容を踏まえるように指導することが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○日常的な漢字の学習の指導の工夫

漢字を書くことの指導においては、既習の漢字を日常的に使用するように指導するとともに、漢和辞典や国語辞典などを活用してそれぞれの漢字等の間違いやすい漢字を取り上げ、文脈に即して書くなどの学習活動が有効である。また、各教科等における学習の中で漢字を適切に使用するように指導することも大切である。

○調査問題の趣旨・内容

数学A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 正の数と負の数とその計算、文字式の計算をする。一元一次方程式を解く。
 ■ 対称移動した図をかく。多角形の外角の和について、正しい記述を選ぶ。
 ■ 反比例のグラフから式を求める。一次関数の表からグラフを選ぶ。
 ■ 与えられた資料の最頻値を求める。確率について正しい記述を選ぶ。

数学B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 前提となる条件を判断し、それが適している理由を表の数値を基に説明する。
 ■ 2種類の自動車を使用する際の総費用が等しくなる使用年数を求める方法について、式またはグラフを用いて説明する。
 ■ 付加された条件の下で、見いだした事柄について数学的な表現を用いて説明する。
 ■ グラフの形や代表値に着目して、平均値を用いて判断することが適切でないことを説明する。

○全体の傾向

・領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、数と式ではA66%、B54%、図形ではA65%、B34%、関数ではA54%、B44%、資料の活用では、A58%、B40%である。図形のAにおいて全国を下回り、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全36問中15問で全国を上回り、Bでは全15問中13問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下のとおりである。

- △A1(2) $-5, 0, 1, 2, 5$ の中から自然数を選ぶ(47%、+6)
 △A10(1) 一次関数の表からグラフを選ぶ(67%、+6)
 △A10(3) 一次関数のグラフから x の変域に対応する y の変域を求める(49%、+6)
 △A11 一次関数の事象を式で表す(59%、+6)
 △B2(1) 一次関数の表から $x=4$ のときの y の値を求める(66%、+7)
 ▼A3(3) 長方形について、横の長さを求めるための比例式をつくる(46%、-6)
 ▼A5(1) 三角柱において、示された辺とねじれの位置にある辺を書く(70%、-6)

○領域ごとの結果の概要

数と式

- ◇A3(4) 方程式 $2x + y = x - y = 3$ から、 x と y の値を求めるための連立方程式をつくる設問において、2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すことは、相当数の生徒ができています。(88%)
 ◆B1(2) 大会の時間が決められていることを前提として、1試合の時間を決めるための方程式をつくる設問において、与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することについては、課題がある。(38%)

図形

- ◆A5(4) 円柱の体積が 600 cm^3 のとき、その円柱と底面の円が合同で高さは等しい円錐の体積を求める設問において、円錐の体積は、円柱の体積の $1/3$ であることを理解することについては、課題がある。(53%)
 ◆B4(2) 平行四辺形の長さの比が $1:2$ のとき、指定された三角形がどのような三角形になるかを説明する設問において、付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することについては、課題がある。(37%)

関 数

- ◇A 9 (1) 比例の表を完成させる設問において、比例関係の表から変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めることは、相当数の生徒ができています。(88%)
- ◆B 2 (2) 前提となる条件が不足している問題に対して、 $x = 4$ のとき、 $y = 9$ になるように、「 y が x に比例している」条件を選び、その理由を説明する設問において、加える条件を判断し、それが適している理由を説明することについては、課題がある。(21%)

資料の活用

- ◆A 12 (1) 読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める設問において、資料を整理した表から最頻値を読み取ることについては、課題がある。(45%)
- ◆B 5 (1) 24.5 cmの靴を最も多く買うという考えが適切でない理由を、グラフの特徴を基に説明する設問において、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては、課題がある。(49%)

○授業改善に向けて

数 と 式

○目的に応じて条件を設定し、数量の関係を数学的に表現する指導の工夫

実生活の場面で課題を解決する活動を取り入れ、目的に応じて必要な条件を設定し、数量の関係を数学的に表現することが大切である。その際、つくった方程式が適切であるかを場面に即して確認する活動を取り入れることが考えられる。また、実生活の場面で数学を活用するよさを感じ得るようにすることで、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度を育むことになり、課題対応能力の育成につながると考えられる。

図 形

○付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現する指導の工夫

新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にして表現する活動を取り入れ、付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導する。その際、前提と結論を明確にし、それが正しいかどうかを証明できるように指導することが大切である。

関 数

○前提として必要な条件を判断し、それが適している理由を説明する指導の工夫

前提となる条件が不足している問題について考察する場面を設定し、付加する条件を判断し、それが適している理由を説明することが大切である。前提となる条件が変われば、答えも変わることを確認する場面を設定し、その答えにするための付加する条件を確認し、その条件が適している理由を、表の数値等を基にして説明することが大切である。

資料の活用

○資料の傾向を的確に捉え、その理由を数学的な表現を用いて説明する指導の工夫

代表値を求めたり、資料の分布の様子を捉えたりする場面を設定し、資料の傾向を的確に捉えて判断できるように指導することが大切である。平均値が代表値としてふさわしいかどうかを資料の分布の様子から検討し、判断する場面を設定することが考えられる。その際、問題の設定とその解決、解決の方法の見通しなど、問題解決の過程を大切に指導する。

② 学習や生活習慣などに関する児童生徒質問紙調査

「児童生徒質問紙調査」の概要は以下に示すとおりであるが、経年変化を見るために、小数点以下第一位までの数値で示している。特に記載ある場合を除き、数値には「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合も含めている。

また、全国に対して±5ポイントの範囲は有意差が認められないとする範囲であり、ほぼ同程度として示す。

〈学習に対する関心・意欲・態度〉 国語

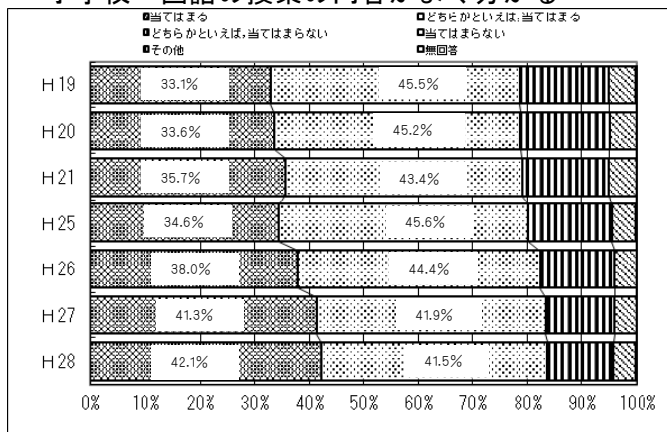
【小学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
国語の授業の内容がよく分かる。	79.1%	83.2%	83.5%	80.7%
国語の勉強は好き。	59.4%	63.2%	61.6%	58.3%
国語の勉強は大切だと思う。	90.6%	92.5%	91.8%	91.3%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	82.6%	88.4%	89.1%	89.2%

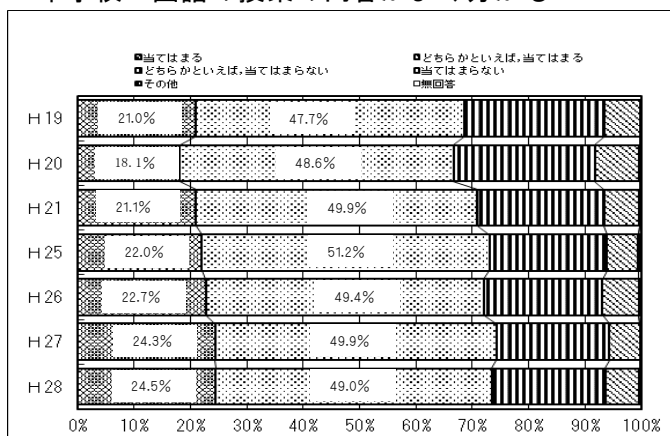
【中学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
国語の授業の内容がよく分かる。	70.9%	74.2%	73.5%	74.1%
国語の勉強は好き。	58.8%	62.5%	60.8%	59.8%
国語の勉強は大切だと思う。	88.3%	88.9%	88.0%	89.1%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	78.9%	82.6%	82.7%	84.6%

小学校 国語の授業の内容がよく分かる



中学校 国語の授業の内容がよく分かる



学習に対する関心・意欲・態度について全国と比較すると、小学校では、3つの質問項目において全国を上回り、中学校では、1つの質問項目において全国を上回った。いずれの質問項目においても全国との差は±5ポイントの範囲内である。

21年度と比較すると、小学校はすべての質問項目で、中学校は3つの質問項目で28年度の方がよい結果となった。

「国語の授業の内容がよく分かる」において、19年度以降7年間の結果と比較すると、小学校では少しずつ上昇がみられ、中学校も同様の結果となった。

今後とも、小中学校では、「国語の勉強は好き」「国語の勉強は大切だと思う」という児童生徒の思いを大切にしながら、単元をとおして言語活動を計画的に取り入れ、児童生徒主体の授業づくりの工夫に取り組むことにより、生きて働く国語の力を育成する授業づくりを進めていく必要がある。

《学習に対する関心・意欲・態度》

算数・数学

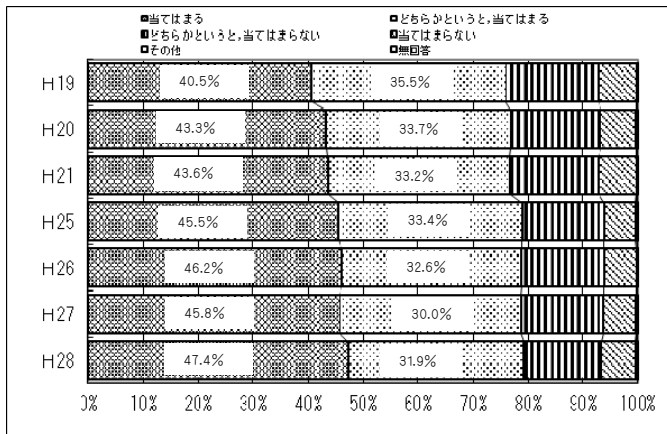
【小学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
算数の授業の内容がよく分かる。	78.9%	78.8%	79.3%	80.2%
算数の勉強は好き。	63.3%	63.8%	66.1%	66.0%
算数の勉強は大切だと思う。	91.9%	93.2%	92.7%	91.9%
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	86.1%	90.0%	90.0%	89.9%

【中学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
数学の授業の内容がよく分かる。	62.8%	70.6%	69.8%	69.4%
数学の勉強は好き。	51.2%	55.1%	56.4%	56.0%
数学の勉強は大切だと思う。	73.1%	79.2%	78.0%	80.5%
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	59.1%	67.3%	67.3%	71.5%
数学ができるようになりたいと思う。	90.3%	91.0%	90.7%	91.3%

小学校 算数の授業の内容がよく分かる



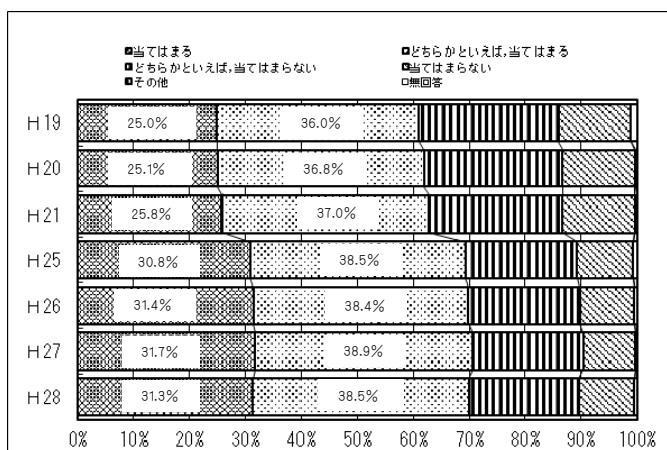
学習に対する関心・意欲・態度について全国と比較すると、小学校では、3つの質問項目において全国を上回り、中学校では、2つの質問項目において全国を上回った。いずれの質問項目においても全国との差は±5ポイントの範囲内である。

21年度と比較すると、小学校、中学校ともに、すべての質問項目において、28年度の方がよい結果となった。特に、中学校の「数学の授業の内容がよく分かる。」「社会に出たときに役に立つ。」において、数値が高くなった。

「授業の内容がよく分かる。」において、19年度以降7年間の結果と比較すると、小学校では、同程度の結果となっており、中学校では、25年度以降同程度の結果となっている。

今後とも、小学校では「算数が好きだ」という児童の思いを、中学校では「数学ができるようになりたい」という生徒の思いを大切にしながら、習熟の程度に応じたきめ細やかな指導を適切に取り入れることにより、「分かる」を実感する授業づくりを進めていく必要がある。

中学校 数学の授業の内容がよく分かる



《自尊感情》

【小学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
自分にはよいところがあると思う。	70.5%	77.4%	79.0%	76.3%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	69.5%	77.7%	78.0%	76.1%
ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。	92.9%	95.5%	94.8%	94.4%

【中学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
自分にはよいところがあると思う。	55.9%	67.6%	69.1%	69.3%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	56.9%	67.2%	69.4%	69.6%
ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。	91.2%	93.8%	94.5%	94.3%

《将来に関する意識》

【小学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
将来の夢を持っている。	83.0%	84.6%	83.1%	85.3%

【中学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
将来の夢を持っている。	68.4%	69.6%	67.8%	71.1%

自尊感情について全国と比較すると、すべての質問項目において、小中学校ともにほぼ同程度である。また「将来の夢を持っている」と回答した児童生徒についても、小中学校ともにほぼ同程度である。

平成21年度と比較すると、「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒は、小学校では8.5ポイント、中学校は13.2ポイント上回っている。また「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と回答した児童生徒についても、小学校は8.5ポイント、中学校は12.5ポイント上回っている。

自尊感情については、平成21年度と比較するとよい状況にあり、学校生活や学校行事等を通して、目標に向けて取り組み、達成感を味わえるような活動などが継続的に取り組まれていることがうかがわれる。今後も特別活動の係活動や委員会活動において、役割を分担し、任された仕事の責任を果たす取組等を通して、「自分自身のよさ」や、「仲間から必要とされていること」を自覚するなどの自己肯定感を高める活動を継続していくことや、「キャリア在り方生き方教育」の推進により、児童生徒が自分の将来に対して前向きに考えることができるような指導が必要である。

〈規範意識〉

【小学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
学校のきまりを守っている。	81.9%	91.4%	91.8%	91.5%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	92.8%	95.7%	95.9%	96.6%
人の役になりたいと思う。	90.3%	93.7%	93.2%	93.8%
人が困っているときには、進んで助ける。	71.5%	—	85.7%	84.6%

【中学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
学校の規則を守っている。	83.9%	93.1%	93.0%	94.7%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	86.0%	91.7%	91.6%	93.6%
人の役になりたいと思う。	87.4%	91.8%	90.9%	92.8%
●人が困っているときには、進んで助ける。	65.2%	—	83.4%	83.8%

●復活項目

規範意識について全国と比較すると、すべての質問項目において、小中学校ともにほぼ同程度である。

平成 21 年度と比較すると、「学校のきまり(規則)を守っている」と回答した児童生徒は、小学校は 9.9 ポイント、中学校は 9.1 ポイント上回っている。また「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒についても、小学校は同程度であるが、中学校は 5.6 ポイント上回っている。

復活項目「人が困っているときには、進んで助ける」と回答した児童生徒は、全国と比較すると小中学校ともにほぼ同程度である。

このことは、各学校におけるすべての教育活動を通して、約束やきまりを守る指導や、「かわさき共生*共育プログラム」等において、社会性の育成に継続的に取り組んでいる成果であると考えられる。今後も望ましい集団活動を通して、よりよい人間関係を築く力や問題を解決していく力を育成し、いじめを未然に防ぐ学級、学校づくりを進めることが大切である。

《学習習慣》

【小学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	54.4%	60.6%	59.5%	62.2%
家で、学校の授業の予習をしている	31.0%	36.7%	37.6%	43.3%
家で、学校の授業の復習をしている。	31.9%	40.8%	42.0%	55.2%
家で、学校の宿題をしている。	93.4%	96.4%	96.7%	97.0%
★予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している。	—	—	55.0%	64.6%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	57.0%	58.6%	59.0%	65.2%
学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	48.3%	52.8%	53.9%	57.0%
学習塾で勉強をしている。	60.6%	59.8%	60.8%	45.9%

【中学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	36.1%	45.6%	46.5%	48.4%
家で、学校の授業の予習をしている	25.6%	35.3%	34.3%	34.2%
家で、学校の授業の復習をしている。	29.7%	42.1%	40.3%	51.0%
家で、学校の宿題をしている。	76.0%	82.6%	84.5%	90.1%
★予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している。	—	—	67.1%	68.2%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	63.7%	70.2%	68.9%	67.9%
学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	51.9%	62.7%	61.9%	67.8%
学習塾で勉強をしている。	70.0%	73.6%	74.2%	61.0%

★新規項目

「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は13.2ポイント、中学校は10.7ポイント下回っている。また「学習塾で勉強している」と回答した児童生徒は、小学校は14.9ポイント、中学校は13.2ポイント上回っている。

平成21年度と比べると「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した児童生徒は、小学校は10.1ポイント、中学校は10.6ポイント上回っている。

新規項目「予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習をしている」と回答した児童生徒は、全国と比較すると小学校は9.6ポイント下回っており、中学校はほぼ同程度である。

小中学校ともに家で学習する習慣については改善の方向にあるが、学習塾で勉強する傾向が全国と比べて高い。家庭でも子どもが自分の課題を認識して目標を立て、計画的に学習ができるよう、学校と家庭が連携をして、家庭学習の習慣化を図る必要がある。

《言語活動》

【小学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。	59.9%	49.2%	48.6%	54.8%
400字詰め原稿用紙 2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。	63.4%	53.4%	52.7%	60.4%
★5年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う。	—	—	80.8%	77.8%
★5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う。	—	—	79.0%	77.1%
★5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	—	68.4%	64.2%
★5年生までに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う。	—	—	77.2%	77.6%

【中学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。	71.7%	59.2%	58.1%	62.8%
400字詰め原稿用紙 2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。	70.4%	60.6%	61.4%	62.8%
★1、2年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う。	—	—	75.1%	73.8%
★1、2年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う。	—	—	75.7%	72.4%
★1、2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	—	62.0%	57.7%
★1、2年生までに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う。	—	—	74.2%	74.1%

新規項目

「授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は6.2ポイント下回り、中学校ではほぼ同程度である。

平成21年度と比較すると、同じ質問項目では、小学校は11.3ポイント、中学校は13.6ポイント下回っており、難しいと思う児童生徒が減少している。

4つの新規項目については、小中学校ともに全国と比べるとほぼ同程度である。

自分の考えなどを文章に書くことを難しいと思う児童生徒が減少し、話し合ったり、自分の考えを相手に伝えたりするなどの活動の定着が、小中学校を通じて図られていることがうかがえる。今後も引き続き各教科等で言語活動を充実させていく中で、発表や話し合い活動の目的や視点を明確にしなが、自分の考えをまとめていくなどの活動を取り入れることが大切である。

《学校生活等》

【小学校】

質問項目	H26	H27	H28	全国
学校に行くのは楽しいと思う。	88.8%	88.4%	87.4%	86.3%
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	87.3%	87.1%	86.0%	86.3%
学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う。	—	83.3%	84.4%	81.8%
★学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけて話し合い、意見をまとめていますか。	—	—	59.5%	58.6%
●先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	82.4%	—	84.4%	82.6%
★先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれる。	—	—	83.2%	84.8%

【中学校】

質問項目	H26	H27	H28	全国
学校に行くのは楽しいと思う。	81.9%	82.4%	81.6%	81.4%
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	84.2%	84.5%	82.2%	84.2%
学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う。	—	82.2%	81.8%	78.4%
★学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけて話し合い、意見をまとめていますか。	—	—	61.7%	58.4%
●先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	74.7%	—	78.8%	78.0%
★先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれる。	—	—	71.9%	74.1%

★新規項目 ●復活項目

学校生活等について全国と比較すると、すべての質問項目において、小中学校ともにほぼ同程度である。

新規項目「折り合いをつけて話し合い、意見をまとめる」については、小学校は59.5%、中学校は61.7%に留まっている。意見をまとめる際に多数決に頼ることなく、自分とは異なる意見や少数意見を生かし、折り合いをつけて合意形成する話し合い活動を通して、多様な他者を理解する気持ちを育み、望ましい人間関係を形成することが必要である。また、学級みんなで協力して何かをやり遂げる活動を継続することで、学級においては、所属感や連帯感が生まれ、「自分たちの学級は自分たちでつくる」という社会参画の態度の育成につながる。これらの活動の取組は、キャリア在り方生き方教育の「自分をつくる」「みんな一緒に生きている」「わたしたちのまち川崎」の3つの視点の充実を図る教育活動として捉えることが大切である。

《家庭でのコミュニケーション等》

【小学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
家の人と学校での出来事について話をする。	68.5%	79.9%	79.3%	79.2%
●家の手伝いをしていますか。	73.9%	—	81.5%	82.8%

【中学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
家の人と学校での出来事について話をする。	56.7%	72.1%	71.8%	74.1%
●家の手伝いをしていますか。	60.1%	—	64.6%	67.2%

●復活項目

《基本的生活習慣》

【小学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
朝食を毎日食べている。	95.1%	94.9%	95.0%	95.5%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	70.2%	77.6%	79.1%	80.1%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	87.1%	89.4%	89.8%	90.8%
普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をする。	29.9%	31.4%	28.8%	29.7%

【中学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
朝食を毎日食べている。	89.9%	91.1%	90.4%	93.3%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	64.8%	71.8%	72.6%	75.2%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	88.6%	90.2%	90.6%	92.3%
普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をする。	25.4%	41.1%	39.5%	34.9%

家庭でのコミュニケーション等、基本的生活習慣について全国と比較すると、すべての質問項目において、小中学校ともにほぼ同程度である。

平成21年度と比較すると、「家の人と学校での出来事について話をする」と回答した児童生徒は、小学校は10.8ポイント、中学校は15.1ポイント上回っている。また「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童生徒は、小学校は8.9ポイント、中学校は7.8ポイント上回っている。また「普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上テレビゲームをする」と回答した児童生徒は、小学校はほぼ同程度であるが、中学校は14.1ポイント上回っている。

このことは、中学生の携帯電話やスマートフォンの所有率が年々高くなったことが影響していると考えられる。学校では情報モラルに関する指導に努めると同時に、使用方法のルール作りなどを家庭と連携して進めることが必要である。また基本的生活習慣では改善の傾向がみられることから、家庭での会話や手伝いなどの時間をつくり出す工夫などについても、学校から家庭への働きかけが必要である。

《地域との関わり》

【小学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	45.8%	53.1%	55.3%	67.9%

【中学校】

質問項目	H21	H27	H28	全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	27.9%	34.3%	35.0%	45.2%

《社会に対する興味・関心》

【小学校】

質問項目	H26	H27	H28	全国
地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。	63.2%	66.6%	70.2%	70.6%

【中学校】

質問項目	H26	H27	H28	全国
地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。	52.3%	52.2%	62.3%	65.8%

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は12.6ポイント、中学校は10.2ポイント下回っている。

平成21年度と比較すると、同じ質問では、小学校で9.5ポイント、中学校で7.1ポイント上回っており、「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」と回答した児童生徒についても、平成26年度と比較すると、小学校は7.0ポイント、中学校は10.0ポイント上回っている。

地域や社会で起こっていることに興味があるものの、地域の行事に参加した経験が少ない傾向がうかがわれる。地域人材を活用した学習や地域での体験学習などを通して、自分達の地域に興味関心をもてるような学習活動の工夫や、地域と連携した学校づくりを通し、児童生徒が多様な形で地域・社会と関わることのできる環境づくりを推進していくことが大切である。